# 新入生アンケート

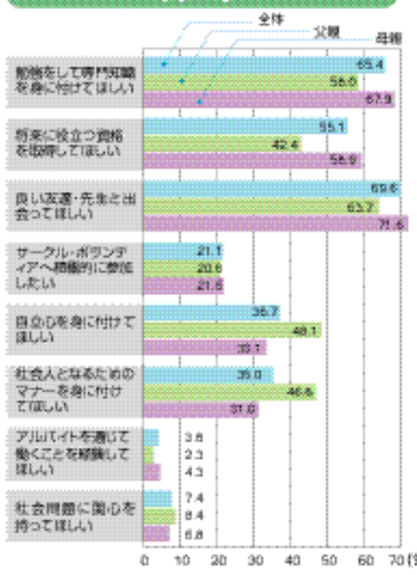
東洋大学では、今春約7,000人の新大学生が誕生しました。大学生活を迎えるにあたって、新入生はどのような期待を持っているのでしょうか。これからの大学生活や卒業後の進路、そして最近話題になっている若者の学力低下問題まで、新入生の意識調査を行いました。また、入学式に出席した父母等にも同じ質問に答えてもらい、親子の意識にどれくらいの違いがあるのかも比較してみました。データと比べて、自分の考えはどうでしょうか？これを機会に親子で話し合ってみるといいかもしれません。

## 新入生はサークル・バイトより勉強重視！

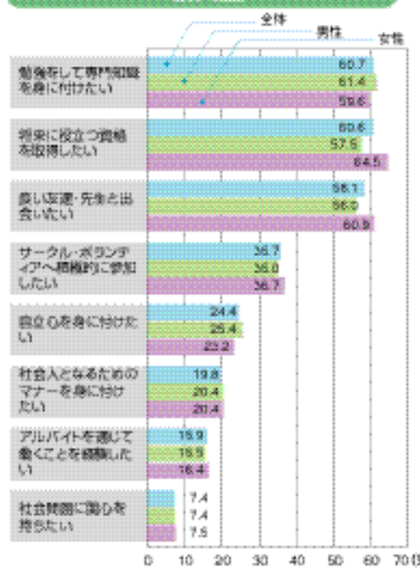
**Q. これからの大学生活で最も力を注ぎたいことは何ですか（新入生）これからの大学生活で最も力を注いでほしいと願っていることは何ですか（父母）**（最新順等、3つ選択）

大学生活で最も力を入れて頑張りたいこと、新入生にとっては「勉強」と「資格取得」となりました。近頃の学生気質は出席率の増加や図書館で熱心に向かう学生が増えるなど「真面目」傾向にあるといわれていますが、それを裏付けるような結果に。かつて大学生活の代名詞ともいわれた「サークル」や「アルバイト」への意識は、きほど高くありません。一方、父母は「良い友達や先生と出会ってほしい」の項目が多く、勉強に取り組むと同時にたくさんの良い友達や先生と出会ってほしい、との期待が読み取れます。

### 父母




### 新入生

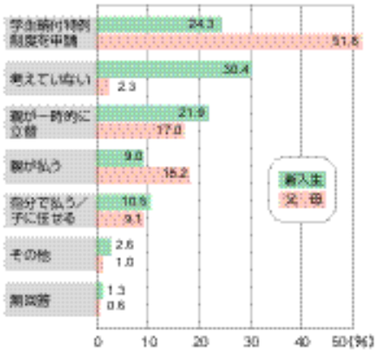



## 親は「親の義務」、子は「自らの問題」と捉える？

**Q. 学生であっても20歳になると国民年金の支払い義務が生じますが、どのようにしますか（新入生・父母）**

年金は若年層の未払いが大きな問題となっていますが、学生のうちは特例制度の利用がスタンダードのようです。新入生はまだ実感がないのか、「考えていない」が3割に。しかし「親が払う」と考えているのは、親が想定している半分（18.2%▽9.0%）しかおらず、「自分で払う」（10.5%▽21.9%）「親に一時的に立替えてもらう」（21.9%▽30.4%）「特例制度を申請する」（24.3%▽51.8%）と、いずれは自分自身で向き合う問題だと考えている人が56.7%もいました。

逆に、親は「子に任せる」と答えた人は9.1%にすぎず、子は親が思っている以上に自立への意識を強めているようです。今回のアンケートがきっかけとなり、お互いに年金について考える機会が増えることを期待しています。





≪調査概要≫
●調査対象／東洋大学へ入学した学生とその父母等（全学部）
●調査期間／（新入生）2005年4月8日～15日
（父母等）2005年4月8日
●調査場所／（新入生）東洋大学
白山・朝霞・川越・板倉キャンパス
（父母等）入学式会場（日本武道館）
●調査方法／（新入生）ガイダンス等出席者へアンケート を配布。終了後に回収
（父母等）入学式出席者へアンケート を配布。終了後に回収
いずれも回答者自身による直接記入法

（新入生）2,418人

| | 性別 | | 通学形態 | |
|---|---|---|---|---|
| | 男子 | 女子 | 自宅通学 | 自宅外通学 |
| 人 | 1,345 | 1,073 | 1,736 | 680 |
| % | 55.6 | 44.4 | 71.9 | 28.1 |

（父母等）1,200人

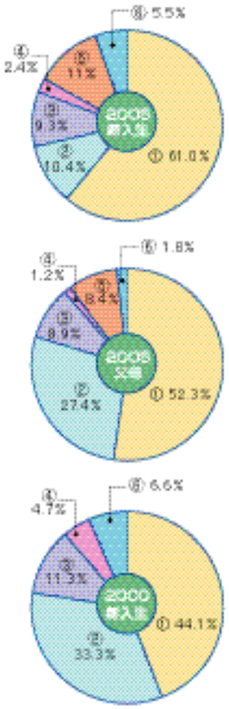
| | 回答者本人 | | | | 入学する子どもの性別 | | | 子どもの通学形態 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 父親 | 母親 | その他の保護者 | 無回答 | 男性（息子） | 女性（娘） | 無回答 | 自宅通学 | 自宅外通学 | 無回答 |
| 人 | 262 | 906 | 30 | 2 | 619 | 556 | 23 | 802 | 381 | 17 |
| % | 21.8 | 75.5 | 2.5 | 0.2 | 51.6 | 46.5 | 1.9 | 66.8 | 31.8 | 1.4 |


## 根強い安定志向、親よりもむしろ子どもに

**Q. 卒業後の進路について、どのような意識を持っていますか（新入生・父母）**

「転職してキャリアアップしたい」人よりも「一生勤められる企業に就職したい」人が大幅に多くなっています。同設問で行った2000年調査の結果と比べ、「一生勤められる企業」の人の割合が増えており、5年間で何らかの考え方の変化が起きていることは明らかです。これを長引く不況による安定志向と見るのか、逆に、就職難がゆるやかになり始めていることに伴い、企業に対する考え方、就職に関する考え方が変わってきた結果と見るのか。キャリアアップや転職が一般的になってきても、入学当初は「一生勤められる企業」を希望している学生が多いと見ることができます。また、娘を持つ父母の意識を見たときに、本人よりも「キャリアアップ」を望んでいる割合が多く、子との意識の違いが見られます。女性が働くことに対する世代間の意識の差とも考えることができます。

### 新入生アンケート

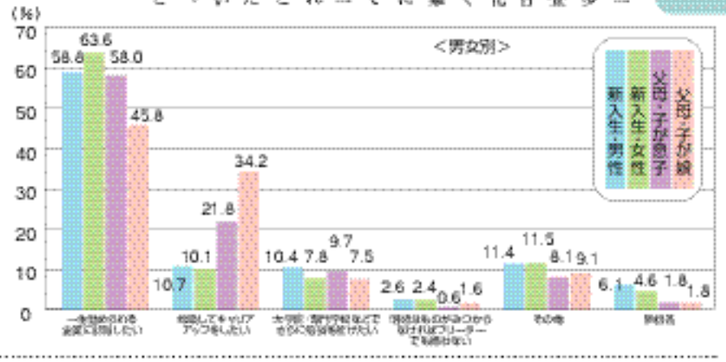




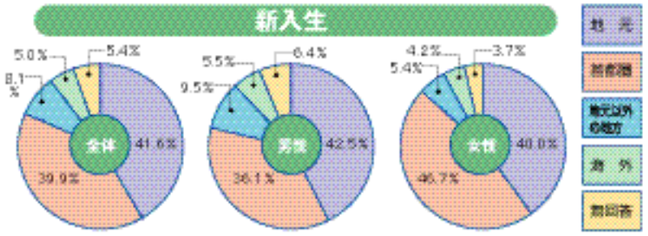





①一生勤められる企業に就職したい
②転職してキャリアアップをしたい
③大学院・専門学校などでさらに勉強を続けたい
④卒業なものがみつからなければフリーターでも構わない
⑤その他
⑥無回答




**Q. 卒業後、就職する場所はどこを希望しますか（自宅外生の新入生・父母）**



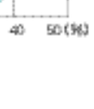

地元
首都圏
地元以外の都市
海外
無回答

### 男性はUターン、女性は首都圏に特徴!?

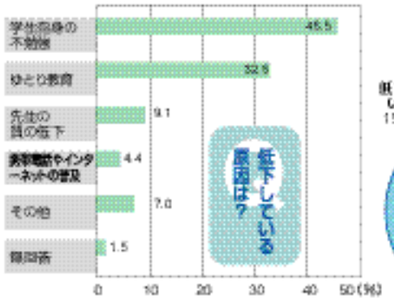
多くの回答は地元に帰るというものでしたが、男女で差が出ました。男性には、地元に戻って家を継ぐという意識が働くのか、新入生・父母ともに地元志向が高くなっていますが、女性は首都圏に残る意識が男性よりも高くなっています。これは、娘を持つ父母にも同じことが、上の結果とあわせて、女性の多様な価値観と生き方の選択の幅が広がった結果といえるのかもしれません。

## 「学力は低下している」に8割　原因は「自身の不勉強」？

**Q. 今の学生の学力は低下していると思いますか（新入生）**




**Q. 低下している原因は？**




『学力低下問題』はいまや国の一大事。新入生も83.1%が『今の学生の学力は低下している』と回答しています。さらに『低下している』と答えた人にその原因を聞いたところ、1位は『学生自身の不勉強』（45.5%）という結果に。『ゆとり教育』の是非が問われ、社会問題化していますが、高校3年間、まさにゆとり教育制度の中に身をおいた彼らが、制度に原因をもとめる以前にまず自身の問題として自省していることに注目できるのではないでしょうか。

大学に入って最も力を入れたいことの上位に『勉強』や『資格取得』をあげる新入生。『学力低下』という評価や厳しい就職戦線などの社会環境の中で、自省することができる謙虚な姿勢が未来を切り開いていく力になることを願います。